

早稲田大学・ブリヂストン
連携研究プロジェクト
発表会



プロジェクト名称

「W-BRIDGE」

Waseda-Bridgestone Initiative
for Development of Global Environment

プロジェクトロゴデザイン



3

両者の想いと強み



WASEDA University

想い

研究成果を広く社会に発信することにより、社会貢献を目指したい。

課題

環境に関する高度な専門的な知見は有するものの、研究の活用を進めるには社会連携での取り組みが必要

強み

- ・13学部、22研究科(大学院)による総合的・学術的アプローチ
- ・環境分野で分野横断型の取り組みを行うための環境総合研究センター



想い

企業理念のミッション「地球環境の保全に貢献」を実現し、「更に上」の環境経営を目指したい。

課題

より効果的な環境経営を進めるためには企業単独の活動では限界があり社会連携での取り組みが必要

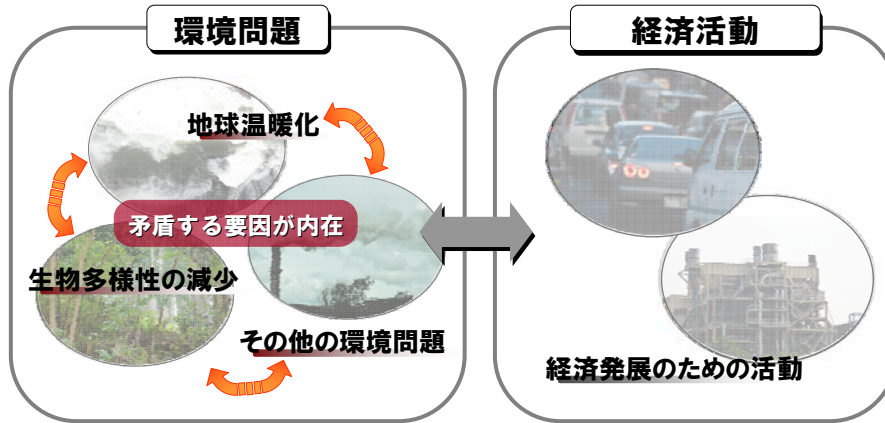
強み

- ・全世界に182の生産拠点と多数の販売拠点をもつグローバルネットワーク(連結で約13万人の従業員)
- ・先進的な環境経営推進

産学連携でこれまでにないパフォーマンスを発揮したい

4

環境問題の現状



それぞれの問題が複雑に絡み合っていて
個別の環境活動のみでは
環境問題の解決も経済との両立も達成困難

5

現状の環境問題解決へのアプローチ

【大学】

- ・ 専門的技術／知識の研究
- ・ 問題の分析、評価
- ・ 関連組織の調整力

専門的で信頼度 大
実生活との距離感

【企業】

- ・ 企業活動に伴う環境負荷軽減
- ・ 環境対応製品の開発・販売
- ・ 関係団体への寄付 など

活動規模 大
活動内容に制約

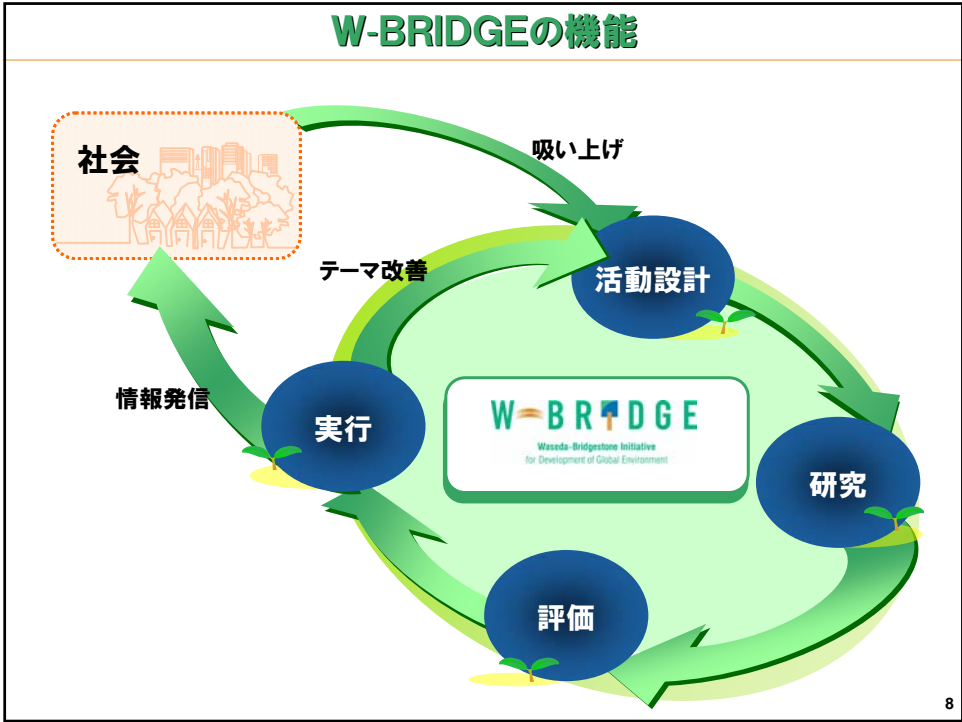
【NPO／市民団体等】

- ・ 少人数によるサークル活動
- ・ NGO、NPO単体での活動

地域の生活に根ざした活動
他への波及効果 小

三者が結びつけば、お互いの長所を生かしつつ、
相乗効果が期待できる

6



W-BRIDGEの研究領域

【社会的環境改善活動の状況・課題】

- 個々の環境問題にお互いに矛盾する要因が内在すること
- 環境改善活動には、地域の人間活動が深く関わること
- 社会的に地球温暖化対策、生物多様性保全は重要課題



1. **地球温暖化防止と生物多様性保全のバランスを考える**
 「地球規模の多様な環境問題解決のかけ橋」
 (地球温暖化対策と生物多様性保全等の連携の道筋を開拓)
2. **人々の生活と環境保全活動のバランスを考える**
 「いかしつ守る環境活動者のグローバルなかけ橋」
 (持続的な人間活動と環境保全活動にかかわる人々の共通の理解と連携の形成)
3. **次世代からの視点で目標を定め、効果的で効率的な環境改善手法を考える**
 「たしかな未来へのたしかなかけ橋」
 (中長期目標設計とバックキャスト手法によるアクション設計)
4. **環境に関する情報を世界へ効果的に発信し、コミュニケーションする手法を考える**
 「地域と世界を生き生きとつなぐ環境情報のかけ橋」
 (環境情報の世界発信を通じた日本および各地域の共時的精神空間の形成)

9

W-BRIDGEの募集のしくみ

W-BRIDGE

Wazanda-Bridgestone Initiative
for Development of Global Environment

募集

応募

【活動実施者】

早稲田大学研究者

13学部、22研究科
19研究センター、
142プロジェクト研究所

早稲田大学協定校研究者等 (含箇所間協定)

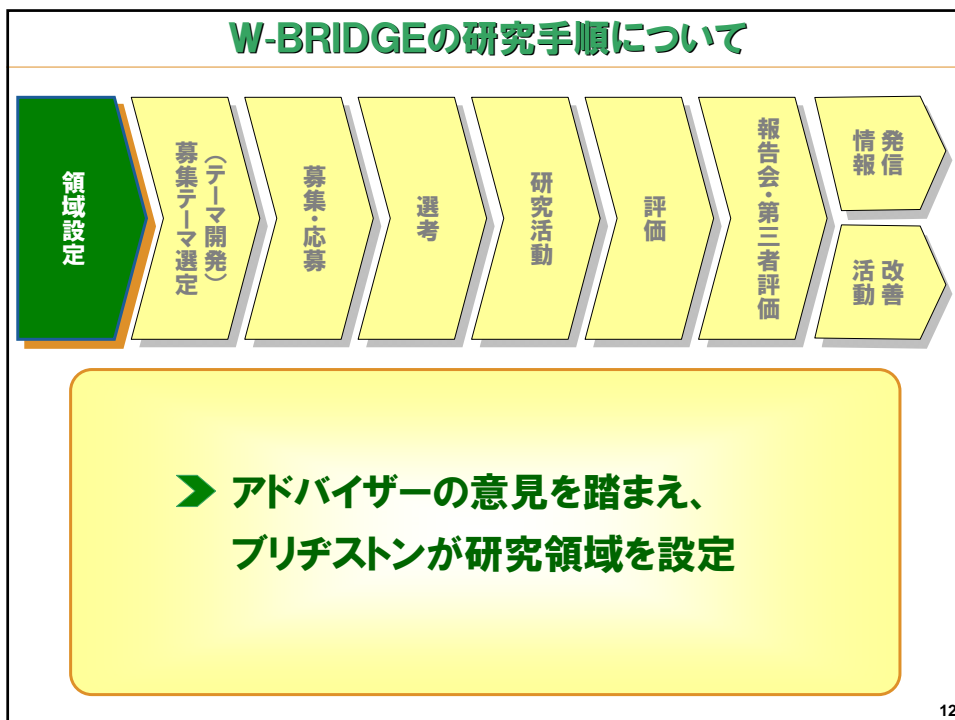
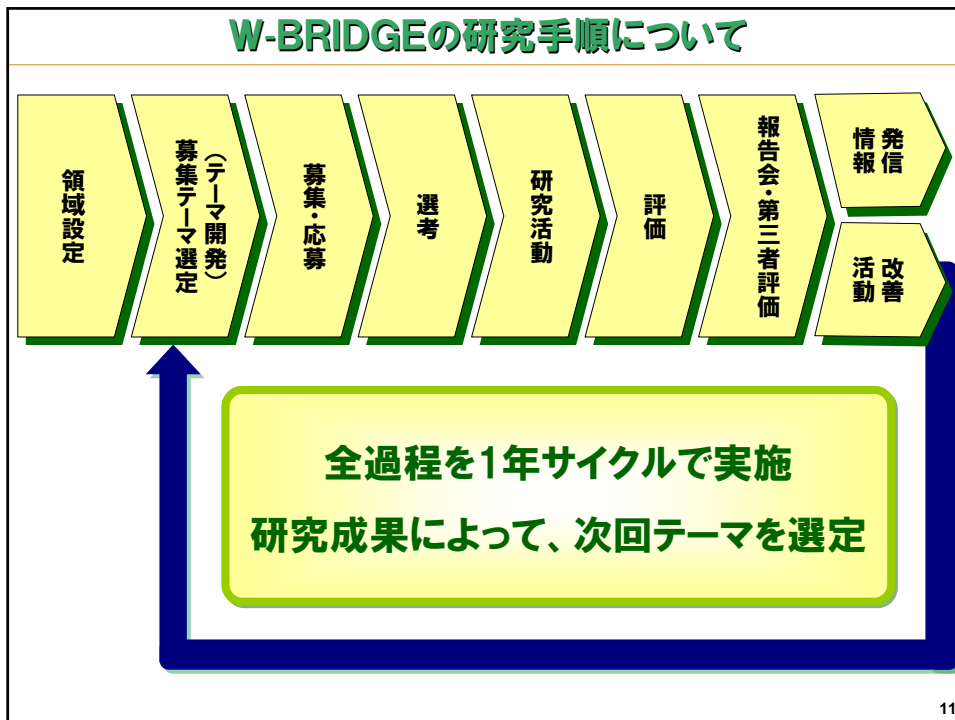
国内 27校 海外 560校 等

連携

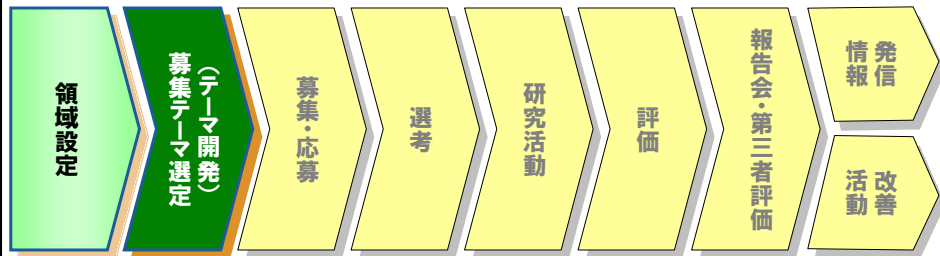
NPO／市民団体等

国内外地域生活者団体

10



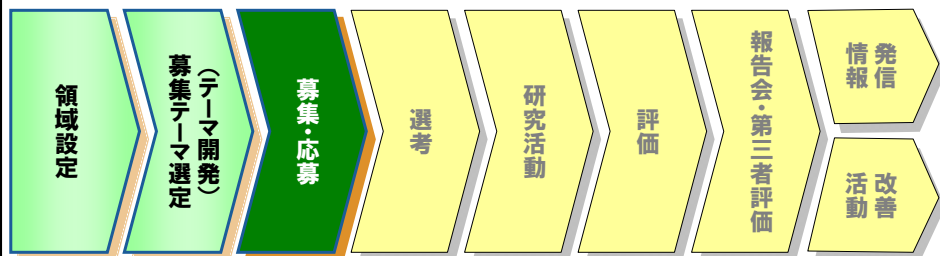
W-BRIDGEの研究手順について



- W-BRIDGEが有効性の高いテーマを選定
(早稲田大学内の横断的な陣容に
ブリヂストンのメンバーが参画)

13

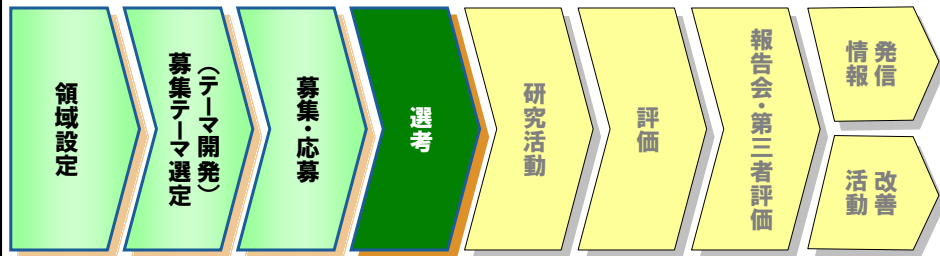
W-BRIDGEの研究手順について



- W-BRIDGEが募集テーマを提示し、
具体的研究課題を募集
- 研究者と市民団体・NPO・学生等が
連携する研究を計画し、具体的な研究課題
(モデル研究)として応募

14

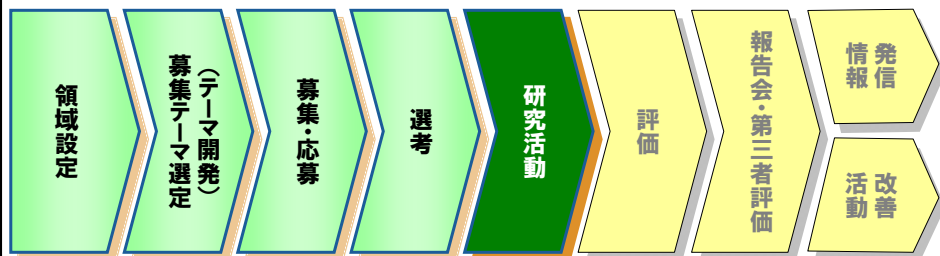
W-BRIDGEの研究手順について



- W-BRIDGEが応募案件を有効性の観点で選考し、決定案件へ資金を提供

15

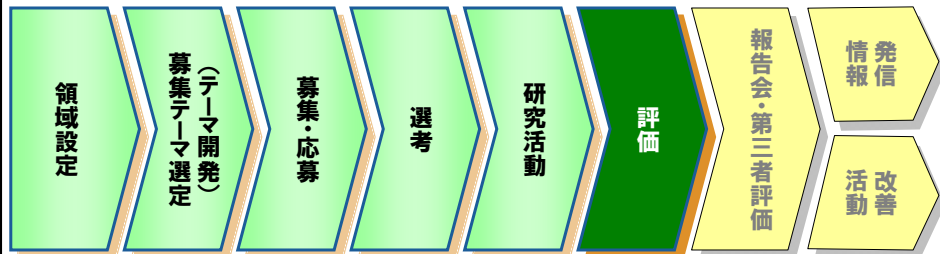
W-BRIDGEの研究手順について



- 研究者が市民団体・NPO等と連携して実際のモデル研究を実施
W-BRIDGEが必要に応じて助言・支援を行う

16

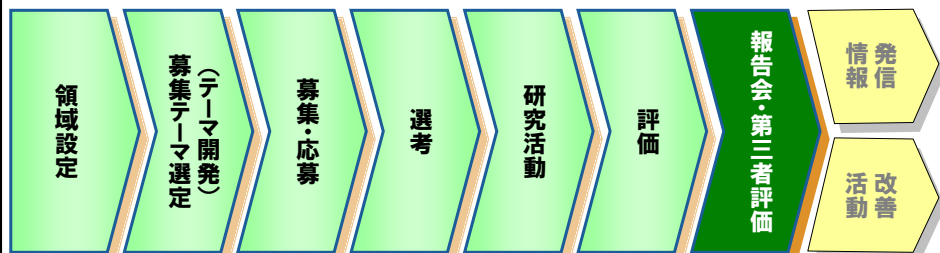
W-BRIDGEの研究手順について



➤ 研究者から報告された研究成果を
W-BRIDGEが評価

17

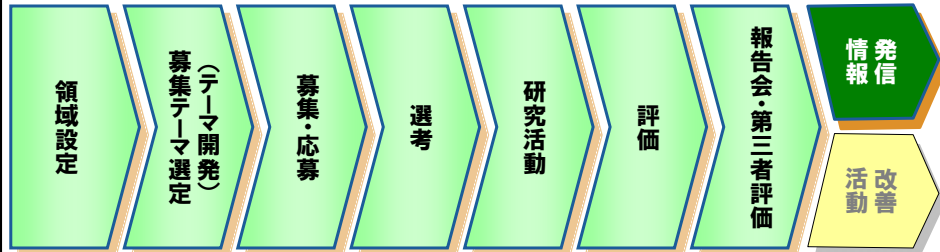
W-BRIDGEの研究手順について



➤ 成果報告会で取り纏められた研究成果に
対しブリヂストンとアドバイザリーボードが
内容を吟味する

18

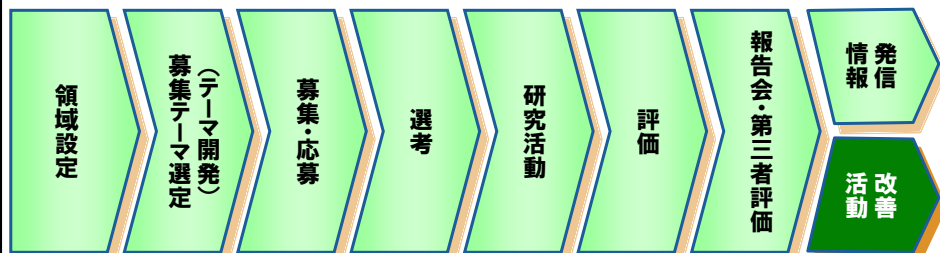
W-BRIDGEの研究手順について



- 研究成果や知見を公開講座や広報等で社会へ発信、普及を図るとともにブリヂストンとしても環境経営に活用する

19

W-BRIDGEの研究手順について



- 報告会でのコメントを受け、活動の見直し、改善を行う

20

W-BRIDGE 運営組織メンバー

◆運営委員

代表：堀口 健治（早稲田大学）
副代表：堀尾 正鞠（早稲田大学）
副代表：橋本 隆次（プリチストン）
永田 勝也（早稲田大学）
勝田 正文（早稲田大学）
平田 靖（プリチストン）
永井 祐二（早稲田大学）
岡田 久典（早稲田大学）
中島 勇介（プリチストン）

21

アドバイザーボードメンバー

池上 清子（環境と開発途上国問題の専門家）
大橋 力（文明科学研究所長/芸能山城組組頭）
小畑 秀文（東京農工大学長）
白井 克彦（早稲田大学総長）
西岡 秀三（国立環境研究所特別客員研究員/IPCCメンバー）
原 剛（早稲田環境塾 塾長）
松尾 典子（NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー）
三村 信男（茨城大学教授/IPCCメンバー）
渡辺 弘之（京都大学名誉教授）

（50音順 敬称略）

22

W-BRIDGE 今後のプラン

08年9月下旬 募集テーマ決定



10月 募集開始



12月 選考結果発表



09年1月 採択した活動のスタート



2~5月 中間経過報告



6月 第一次成果報告会

23

W-BRIDGE

Waseda-Bridgestone Initiative
for Development of Global Environment



WASEDA University

BRIDGESTONE